



サンホセ日本人学校を選んでいただける

サンホセ日本人学校 校長 半山章人

「先生、娘がどうしてもサンホセ日本人学校に残りたいというのです。」1学期で本校を転出する予定だった子どもの保護者の方から連絡がありました。子どもの固い決意に保護者の方も納得したのでしょうか。ありがたい気持ちでいっぱいでした。「来るものは拒まず、去る者は引き止めたい」そのような気持ちで日頃から子どもたちや保護者の方と接しています。サンホセ日本人学校で学びたい気持ちがある限り、ありがたくお子様を預らせていただきます。しかし、何が子どもの気持ちをそうさせたのでしょうか。日本人学校で出会えた友達、そして授業や学校行事、学校の雰囲気、もしかしたら日本の文化や日本語の魅力かもしれません。

中南米では在外教育施設の子供の数が減少し、インター校や現地校に通うケースも見られます。国内では、公立高校の入試倍率が低下している傾向があると聞いています。子供の数が減少している中、まさに子供一人は学校の存続に影響します。そのため、各校とも魅力ある学校づくり、選ばれる学校づくりを目指しています。そして、学校のよさを発信することに力を入れています。よくよく考えてみますと一番魅力を発信してくれているのは、在籍した、また在籍している子供たち本人です。過去に在籍した児童生徒の声を下に一部紹介します。

- 日本人学校は、人間性を磨く場所のように思います。謙虚さや慎ましさを持ち合わせる方々と海外にてお会いするのはとても稀です。また、日本人学校で学んだ課題を解決するための意欲や真面目さは、就職後とても役に立っています。人として、社会人として必要な人間性を育むことができます。他人を尊重し、特性を見いだす能力は、個性あふれる子どもたち、そして異国文化と触れ合える日本人学校で身につけられると思います。
- 小1～中3までの児童生徒を上級生と下級生が混ざるように4～5班に分け、全員で行う掃除の時間があったことはよかったです。上級生に教えてもらって、掃除ができるようになりました。
- 先生と一緒にマンツーマンで勉強できることは、自分がわからないことを明らかにすることができるので、とてもよかったです。数学では、コスタリカの学校では教えてくれない計算方法や問題の解き方が役に立ちました。理科ではたくさんの実験をしてくれて楽しかったです。

サンホセ日本人学校に残りたいという声や在籍した子どもたちの声から、私たち教員が本校を選ばれる学校づくりに向けて、さらに邁進しなければならないという気持ちになりました。

2学期(86日/1年間200日)も、どうぞよろしくお願いいたします。



【コーヒー農園へ校外学習】



【卒業生から学ぶ～ダンス～】



【校内夏祭り体験】



【1学期お楽しみ会】



【サンアンソニー校生徒会長就任式】

- 8月12日(火) 2学期始業式
- 13日(水) 身体測定
- 15日(金) 母の日(お休み)
- 18日(月) 委員会⑤
- 22日(金) クラブ④(前期最終)
- 9月 1日(水) 集金
- 6日(土) 持久走記録会・授業参観
宿泊学習説明会 避難訓練(引き渡し)
- 8日(月) 振替休業日



- 9日(火) 教育相談週間
- 10日(水) 持久走記録会(予備日)
- 12日(金) 前期お誕生日会(6校時)
- 16日(火) 2学期中間テスト範囲発表(中学部)
委員会⑥
- 17日(水) 越島杏佳さん来校(3・4校時)
- 19日(金) クラブ(後期①)
- 23日(火) 職員研修(5時間授業) 下校バス 14:00
- 26日(金) 前期活動報告会
- 30日(火) 中学部中間テスト(～10/1)

